

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	人文科学概論（コミュニケーションを含む）	
科目担当者	平瀬芳美	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	鍼灸臨床における医療面接 拡大版（丹澤章八）	
使用参考書	なし	
評価方法	前・後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。定着度の確認は、通常授業の中の質疑等で行います。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、主にコミュニケーションについて学びます。 (1) 点字について（ごく初歩的な実技を含む） (2) 接遇、医療面接について（実技を含む）*コミュニケーション (3) 上記以外の内容（例：パソコンの基礎知識、文芸等） 3については、クラスの希望に基づいて実施します。	
授業の展開	授業は、教科書や補助資料を中心に進めます。毎回冒頭に前回の授業の確認をしますので、自己学習による復習が重要です。実技は、事前説明やオリエンテーションを経て実施します。なお、内容・実施順・時間配分・評価方法等は、実情に応じて変更する事があります。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 30時間
前 期	< 16 週 >	前期計 16
1 人文科学概論オリエンテーション		1
2 点字実技		
(1) 点字の必要性、用具等についての説明		1
(2) メの字書き、数字、氏名		1
(3) 訂正の仕方、試験解答方式等		1
(4) 点字用郵便について		1
3 接遇理論 *コミュニケーション (9時間)		
(1) マナーとルール、上座と下座		2
(2) 来客対応、ノック、名刺交換		2
(3) 湯茶接待、電話対応		2
(4) 身だしなみ（外部講師による特別授業を含む）		1
(5) 一般的接遇から医療的接遇へ		1
(6) 医療面接と評価法（OSCE）		1
5 その他		2
6 期末試験		

後 期 < 14 週 >	後期計 14
1 医療面接	
(1) 実践編 第1章、第2章 (墨:18~55頁、DAISY:12~36頁、点:15~80頁)	4
(2) 実践編 第3章、第4章 (墨:56~69頁、D:37~44頁、点:81~102頁)	3
2 接遇実技 *コミュニケーション (5時間)	
(1) シナリオ確認	1
(2) オリエンテーション (環境認知等)	2
(3) 医療面接<導入部>ロールプレイ	1
(4) 反省、フィードバック	1
3 その他	2
4 期末試験	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	社会科学概論	
科 目 担 当 者	河原塚 由紀	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	なし	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。なお、前期、後期ともに習熟度を確認するため中間期チェックを行う予定ですが、これは評価に含まれません。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な福祉を中心とした社会科学諸分野の基礎的知識について学習し、現代社会の諸問題を総合的に把握し、卒業後の就労時に役立つ知識を身に付けることを目的とした授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は事前に配布した資料をもとに進め、既習内容については発問を交えて知識の確認をします。なお資料については大きな单元ごとにまとめたものを希望媒体で配布します。	
自己学習の進め方	配布するまとめ資料はあくまで抜粋ですので、講義にしっかり耳を傾けわからない用語などは授業中に質問するなどして確認して下さい。また普段からニュース等をチェックするなど学習内容にかかわる項目に興味をもつことでより理解が深まると思いますが、また卒業後に活用できる知識として身につくことと思います。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 30時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
高齢者福祉について		
・高齢化社会とは		1
・少子化問題など		1
高齢者に関するその他の制度について		
・後期高齢者医療制度		3
・その他		1
中間期チェック		1
中間期チェックの講評		1
介護保険について		
・制度の概要		3
・ケアマネージャー		2
・在宅サービスの種類		2
期末試験		
期末試験の講評		1

後 期 < 14 週 >	後期計 14
介護保険について	
・施設サービスの種類	1
・介護保険改正のポイント	1
・その他	1
国民年金について	
・年金の概要	2
・老齢基礎年金	2
中間期チェック	1
中間期チェックの講評	1
・障害基礎年金	2
・遺族基礎年金	1
・その他の年金制度	1
期末試験	
期末試験の講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	自然科学概論	
科 目 担 当 者	武田和男	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	印刷されたプリントや教室実験・ビデオ視聴	
使 用 参 考 書	「仮説実験授業」「永遠の生命」「発明発見物語」「歌う生物学」その他	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	科学史・医療の歴史を通して、自然と生命の奥深さを知り、自然理解を深め、理性の価値を認識し、豊かな自然観を高めるよう展開します。	
授 業 の 展 開	毎時間印刷され用意されたテキストの音読による理解と、ビデオ教材の視聴、実験により授業を展開します。	
自 己 学 習 の 進 め 方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 30時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
生物と細胞	2	
DVD驚異の小宇宙人体（生命誕生）	1	
細胞とその社会	1	
土と触れる	1	
DVD驚異の小宇宙人体（骨格筋肉）	1	
DVD驚異の小宇宙人体（消化吸収）	1	
永遠の生命 He1a細胞	2	
あなたの体は9割が細菌	2	
脳はバカ腸は賢い	2	
笑いと免疫力	1	
DVD生命大躍進（脳の進化）	1	
まとめの時間	1	
前期テスト		
後 期 < 14 週 >	後期計 14	
インフルエンザとウイルス	2	
ウイルスの謎を解いた人々	2	
筋肉の動く仕組みを探る	2	
石炭酸で傷口を洗う（消毒法）	1	
華岡青洲	1	
伝染病の原因を探せ	2	
沈黙の春	2	
歌う生物学2	1	
まとめの時間	1	
後期テスト		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	保健体育	
科目担当者	新 八吉	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授 業 の 方 法	実技	
使 用 教 科 書	なし	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	観察記録法により評価します。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な健康・安全や身体運動について学び、健康の保持増進のため運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得する授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の復習をし、また授業では各種目の完成を目指します。毎回習得度を確認し、不十分であれば繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	授業でスムーズに身体を動かすことができるように、またケガの予防のため日頃より軽くトレーニングを行ってください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 30時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
体育ガイダンス	1	
体力測定	1	
ストレッチ体操	3	
陸上競技	3	
球技	4	
フライングディスク	3	
講義	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 14	
陸上競技	2	
カローリング	3	
球技	3	
筋力トレーニング	2	
レクリエーション	2	
ストレッチ体操	1	
講義	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学Ⅰ（運動学を含む）	
科目担当者	藤原 太樹	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	盲学校理療科標準教科用図書 解剖学 第3版 (盲学校理療教科用図書編纂委員会編・河野邦雄ほか)	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造とその運動について学び、これを施術に応用する能力と態度を修得することを目的とします。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、模型観察と身体運動を積極的に行っていただき、理解を深めていきます。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、提示される課題に取り組んで下さい。授業中における模型観察の時間が不十分だと感じた場合には、放課後等の基礎医学教室開放時間を活用して模型観察を行い、授業内容の理解と問題解決に努めましょう。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 120時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 64	
1. 人体の構成(区分と方向)	2	
2. 運動器系(骨、各関節)		
①総論(うち、運動学 2時間)	*運動学	3
②脊柱		8
③胸郭		4
④上肢		7
⑤下肢		7
⑥頭蓋		8
3. 運動器系(筋)		
①総論		2
②体幹とその運動(うち、運動学 5時間)	*運動学	8
③上肢とその運動(うち、運動学 5時間)	*運動学	10
復習、その他(うち、運動学 1時間)	*運動学	2
中間試験(形成的評価)		1
中間試験(形成的評価) 講評		1
期末試験		
期末試験 講評		1

後 期 < 14 週 >	後期計 56
3. 運動器系 (筋) ※前期続き	
⑤下肢とその運動 (うち、運動学 5時間) *運動学	9
⑥頭頸部とその運動 (うち、運動学 5時間) *運動学	8
4. 神経系	
①総論	2
②中枢神経	9
③伝導路	6
④末梢神経	9
基礎運動学	
①運動の基礎 (てこと滑車) *運動学	2
②体の重心と姿勢 *運動学	2
復習、その他 (うち、運動学 3時間) *運動学	6
中間試験 (形成的評価)	1
中間試験 (形成的評価) 講評	1
期末試験	
期末試験 講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学Ⅱ	
科 目 担 当 者	山本 浩二	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	盲学校理療科標準教科用図書 解剖学 第3版 (盲学校理療教科用図書編纂委員会編・河野邦雄ほか)	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 解剖学	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着や自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、人体諸器官の位置・形態・構造について学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は教科書に沿って進め、模型観察を取り入れ、要点を整理し、他科目と関連付けられるように説明します。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試験過去問題集を何度も回答して問題に慣れましょう。また、わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。模型観察は放課後にも行うことができます。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 90時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 48	
第1章 人体の構成	12	
第4章 消化器系	15	
第3章 呼吸器系	10	
第5章 泌尿器系	6	
復習、その他	4	
期末試験		
期末試験講評	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 42	
第6章 生殖器系	8	
第7章 内分泌系	6	
第2章 循環器系	15	
第9章 感覚器系	8	
復習、その他	4	
期末試験		
期末試験講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	生理学I	
科目担当者	関矢 稔	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	盲学校理療科標準教科用図書 生理学 第3版 7刷 (盲学校理療教科用図書編纂委員会編・佐藤優子ほか)	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストや授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。	
科目の概要と学習の目的	生理学は体の正常な働きについて学習する科目です。生理学Iでは生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄について学習します。正常な体の働きを理解しているからこそ、異常(疾病)を理解できるようになります。また、あはき施術の作用機序を理解するための基礎知識ともなる重要な科目です。	
授業の展開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や2年生以降で学習する臨床系の科目との関連性を意識した知識も教授します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 60時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
第1章 生理学の基礎	6	
第4章 消化と吸収	13	
第5章 代謝	4	
第3章 呼吸	8	
期末試験		
期末試験講評	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
第6章 体温	6	
第2章 循環	14	
第7章 排泄	7	
期末試験		
講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	関係法規	
科目担当者	藤原太樹	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使用教科書	医療と社会 改訂第7版(田中千章)	
使用参考書	配布資料	
評 価 方 法	前期末及び後期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律及び、医療関係法規の基礎的知識について学習し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を習得することを目標とします。	
授 業 の 展 開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では、前回の授業の要点を復習します。授業の終了前には、本日の授業の要点をまとめます。国家試験の過去問を使い、随時、問題演習を行います。	
自己学習の進め方	まとめ資料を配布します。この資料はあくまでもポイントを記載したものですので、教科書の関連する単元を良く読み、前後の文章などを確認しながら、復習に活用してください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 30時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
1. あん摩・鍼灸における法と制度の概要		
法とは何か、あん摩・鍼灸の制度史	1	
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の概要		
(1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における免許		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許の資格要件	1	
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許に関する事務など	1	
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の身分の消滅と復活	1	
(2) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における業務		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務の独占と業務範囲	1	
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術に関する注意	1	
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術所などに関する規制	1	
エ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所の名称の制限及び広告の制限	1	
オ あん摩マッサージ指圧、はり、きゆうの業務の停止	1	
カ 無免許営業の取り締まり	1	
(3) 罰 則		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する罰則	1	
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所に関する罰則	1	
まとめ 問題演習	3	
期末試験		
期末試験 講評	1	

後 期 < 14 週 >	後期計 14
3. その他の関係法規	
(1) 医療に関する法律	
ア 医療法の概要	1
イ 医師法の概要	1
ウ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要	1
(2) 社会福祉に関する法律	
ア 老人福祉法の概要	1
イ 児童福祉法の概要	1
ウ 身体障害者福祉法の概要	1
エ 知的障害者福祉法の概要	1
オ 介護保険法の概要	1
カ 老人保健法の概要	1
まとめ	4
期末試験	
期末試験 講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	東洋医学概論 I	
科 目 担 当 者	小原 恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	基礎理療学 I 東洋医学概論 改訂第7版 (オリエンス研究会)	
使 用 参 考 書	新版 東洋医学概論 (東洋療法学校協会編)	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。	
科 目 の 概 要 と 学 習 の 目 的	東洋医学概論 I は、東洋医学系の科目やあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの施術においても基礎となる科目です。東洋医学概論 I では東洋医学の基礎的事項や施術において必要となる知識の習得を目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の復習、授業の終了前にはその授業の要点をまとめます。授業進度に合わせ発問を交えて知識の確認をします。試験前には国家試験過去問題を使用して問題演習を行います。	
自 己 学 習 の 進 め 方	授業後、教科書やまとめた内容を確認し理解を深めてください。東洋医学用語など、難解のものが多いため理解が難しい場合は、担当教官へ質問をし、疑問解消を図り東洋医学概論 I の内容理解と知識の定着に努めましょう。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 60時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
ガイダンス	1	
第1編 東洋医学の基礎理論		
第1章 東洋医学の意義と特徴	4	
第2章 陰陽論五行論		
第1節 陰陽論	4	
第2節 五行論	8	
第2編 東洋医学の生理観		
第1章 東洋医学における人体の構成	2	
第2章 気・血・津・液・精・神の生理	7	
第3章 臓腑	3	
復習	2	
期末試験		
試験の講評	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
第3章 臓腑	13	
第4章 経絡と経穴	10	
復習	4	
期末試験		
試験の講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程 1 年	
科 目	経絡経穴概論 I	
科目担当者	佐藤 浩輔	
単位数・年間時間数	3 単位・90 時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	新版 経絡経穴概論 拡大版 第 2 版 (日本理療科教員連盟・公益社団法人)	
使 用 参 考 書	-	
評 価 方 法	前期、後期ともに、中間期に実技試験(90%)と口頭試験(10%)、期末に筆記試験(90%)と口頭試験(10%)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
科目の概要と学習の目的	あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について、東洋医学との両面から考察し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う授業です。	
授 業 の 展 開	十四経脈に所属する経穴361穴の部位と取穴法を理解して、主要な経穴を実際に取穴できるようにします。前期は任脈から手の太陽小腸経の177穴、後期は足の太陽膀胱経から足の厥陰肝経の184穴を学習します。	
自己学習の進め方	各経脈の講義に入る前に、所属する経穴を所定の順に「音」で記憶していることが理想的です。経穴を正しく音読し、担当教官の前で暗唱ができるよう予習に取り組んでください。十四経脈の所属経穴の部位と取穴法を簡便に記した資料を作成し、それを用いて講義を進めます。講義中は配布資料の内容を確認し、講義後は実際に自分の身体で経穴を指し示しながら定期的に復習することで、部位と取穴法の理解に努めてください。また、理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 90時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 48	
(1) 経絡経穴の概要(十二正经、奇経八脈、経穴の概要、取穴法)	3	
(2) 主な経穴(十四経の主な経穴名と部位)		
ア 督脈	6	
イ 任脈	6	
ウ 手の太陰肺経	3	
エ 手の陽明大腸経	5	
オ 足の陽明胃経	8	
カ 足の太陰脾経	8	
キ 手の少陰心経	3	
ク 手の太陽小腸経	6	
中間試験(実技・口頭試験)		
期末試験(筆記・口頭試験)		
後 期 < 14 週 >	後期計 42	
(2) 主な経穴(十四経の主な経穴名と部位)		
ケ 足の太陽膀胱経	10	
コ 足の少陰腎経	6	
サ 手の厥陰心包経	3	
シ 手の少陽三焦経	6	
ス 足の少陽胆経	8	
セ 足の厥陰肝経	6	
(3) 経絡経穴の現代医学的研究	3	
中間試験(実技・口頭試験)		
期末試験(筆記・口頭試験)		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印 ○

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ（マッサージ実習）	
科目担当者	小原恵子	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	保健理療基礎実習 第2版（都立文京盲学校理療科研究会）	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%と平常点20%で評価します。平常点は授業態度で評価します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要なマッサージ施術に関する基礎的な知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度の修得を目的とする授業です。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の復習を行います。課題についてデモを交えて説明し、それを踏まえて利用者間で互いに施術練習をし、教官が確認・教授します。授業終了時には、床面のタルクの除去等、実習室の軽い清掃をし清潔保持に努めます。	
自己学習の進め方	日頃から繰り返し練習することによって、手掌と指先の感覚が養われ、施術者の手が作られていきます。また、皮膚上から直接触れる施術を行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 60時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
1 施術への導入	2	
・マッサージの意味と変遷		
・基本手技		
2 身体各部位のマッサージ		
・前腕	12	
・下腿	10	
・足部	4	
・復習	2	
期末試験		
期末試験講評	1	
見学実習	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
2 身体各部位のマッサージ（続き）		
・膝関節	8	
・足関節	4	
・肩関節	7	
・頭部	3	
・顔面	3	
・復習	2	
期末試験		
期末試験講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習Ⅱ（きゅう実習）	
科 目 担 当 者	小原恵子（助手：松田さおり）	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	実技	
使 用 教 科 書	鍼灸実技 改訂第5版（オリエンス研究会）	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%と平常点20%で評価します。平常点は授業に取り組む態度で評価します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として灸施術を安全かつ衛生的に行うための施術と基礎的な知識や技能について教授し、灸施術について一連の流れを身につけ、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度の修得を目的とする。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭に、本日の授業の目的と注意事項を説明します。理解できないときには質問してください。正確で安全な灸施術には、繰り返しの練習が必要です。反復練習に重点を置き、習熟度を確認しながら進めます。授業進行中、不明な点がありましたら、遠慮なく質問してください。	
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技能は、解剖学や経絡経穴概論に関連する学習内容も含まれていますので、積極的に当該科目の復習を行ってください。やけどや火災の危険があるため、授業時間以外は火を扱わない練習を行ってください。練習方法は授業のときに提示します。火を扱う練習をしたい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 60時間
前 期	< 16 週 >	前期計 32
1. 施術への導入（オリエンテーションを含む）		4
施術者としての心構え（身だしなみ）		
施術室の管理		
衛生管理（手洗い、器具の洗浄、廃棄物の取り扱い等の感染防止策）		
リスク管理の基本（過誤・副作用・やけどへの対応・AEDの確認等）		
灸の基礎知識（用具の確認）		
2. 台座灸への点火と施灸		6
3. 線香への点火		2
4. もぐさの製造方法（DVDの視聴）		2
5. 知熱灸艾柱（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸		8
6. 反復練習、試験対策練習		8
7. 期末試験		
8. 期末試験講評		2
後 期	< 14 週 >	後期計 28
9. 知熱灸（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸の復習		2
10. 知熱灸・透熱灸（小豆大・米粒大・半米粒大）のひねりと施灸		2
11. 各種灸法（カマヤミニ・MT温灸器等）による施灸		4
12. 隔物灸（生姜・大蒜・塩）による施灸		4
13. 反復練習、試験対策練習		8
14. 期末試験		
15. 期末試験講評		2
16. せんねん灸での治療（取穴・施灸）		6

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和3年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ（指圧実習）	
科目担当者	関矢 稔	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	保健医療基礎実習 第2版（都立文京盲学校理療科研究会）	
使用参考書		
評価方法	各学期末に行う実技試験で評価します。習熟度を確保するため各学期に中間期評価を行います。成績には含めません。	
科目の概要と学習の目的	指圧は術者の徒手を用いて患者の身体の一部を押しつぶすことにより、生体機能を調整し、健康の保持・増進を図る手技療法です。この科目では指圧の基本となる押圧動作について、体重移動により必要十分な加圧が安定して行えるようになることを第一の目標としています。	
授業の展開	実技指導において、目視での確認が難しい方には教官の手や体に触れてもらいながらその動きをイメージしていただきます。また随時、教官が被術者となり各自の技術を点検・修正しながら習熟を目指していきます。後期にはセンター近隣で開業している施術所を見学する機会を設け、卒後の進路計画の一助としていただきます。また外部医師による感染症講話を通して、感染力の強いインフルエンザやノロウイルスに関する基礎知識と感染対策について学びます。	
自己学習の進め方	「押す」という動作を安定して行うためには手指や腕だけではなく体幹の筋肉を「押せる」状態に育てる必要があります。日頃から基礎体力訓練として腕立て伏せ等で「押す」ための筋力を鍛えておくことをお勧めします。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 60時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
導入・ガイダンス説明	1	
押圧の基本動作と基本手技	15	
伏臥位（腹臥位）の指圧	15	
期末試験		
講評	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
伏臥位（腹臥位）の指圧	14	
仰臥位（背臥位）の指圧	12	
施術所見学実習	1	
期末試験		
講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印